

## 企画展示室

# お雛様と山形理俳句展

2013年 2月22日(金) — 4月9日(火)

古今雛 (第二代 原 舟月)

雛道具

江戸後期



古今雛

雛道具

江戸後期

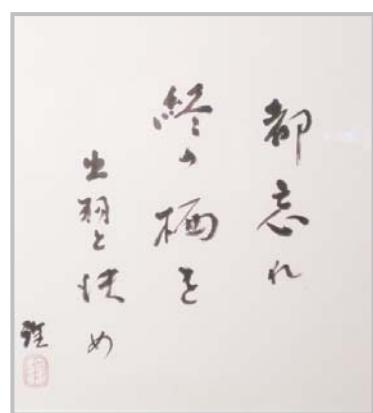
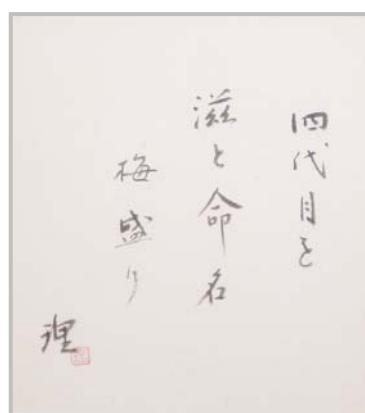
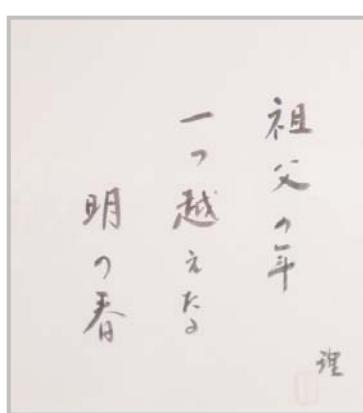
芥子雛

"

明治初期

## 俳句 山形理

— ホトトギス同人・雪舟 編集兼発行人 —



春夏秋冬 各3句 12句 展示いたします

## 真下慶治記念美術館

〒995-0054 山形県村山市大字大淀 1084-1

TEL 0237-52-3195 FAX 0237-55-2152 E-mail [massimo@city.murayama.lg.jp](mailto:massimo@city.murayama.lg.jp) HP 真下慶治公式ホームページ検索

開館時間 /9:00-17:00(入館は16:30迄) 入館料 /大人300円 小・中学生150円 休館日 2/27・3/6, 13, 21, 27・4/3

## 原 舟月 「古今雛」創始者

(初代：金五郎 二代：金太郎 三代：古今斎、金太郎)

初代は大坂堺出身。江戸日本橋十軒店(中央区)に店を開く。内裏雛を改良し「古今雛」を創造。

写実的に柔軟な面立ちと金糸や色糸を使った豪華な衣装が特徴。

二代目は、神田丸太河岸の材木問屋の次男として生まれる。13歳で初代舟月に入門。

雛の表情が生き生きとしてより写実的になり、それまで京風を上としていたデザインから独立して江戸の粋を特徴とする雛人形が様々な作られるようになった。また、京都にも影響をあたえ京風の雛も更に美しく改良が加えられた。

二代目の一人息子が三代目。

明治・大正から現代の雛人形はこれらのあとを継いで発展した。

---

## 芥子雛の由来

江戸時代の中期頃より流行した小型の雛。

江戸時代中期以降、年々町の雛祭りは派手になっていき、その賑わいは今の私たちの想像を超えていただろうと言われている。そこで、幕府は民間の雛祭りに対してたびたび贅沢を禁止するお触れを出した。

しかし、庶民の中で小さくても豪華で贅沢な芥子雛を求めた。

---

## 山形 理 ホトトギス同人・雪舟 編集兼発行人

### 略歴

大正13年	兵庫県神戸市に生まれる。
昭和25年	京都大学理学部卒。理学博士。
昭和25年	兵庫県尼崎市立高等学校に勤務。
昭和27年	山形大学文理学部に赴任。平成2年退官。 山形大学名誉教授
昭和19年	明治専門学校(現・九州工業大学、昭和18年入学) 在学中に学徒動員先の三菱方城炭坑にて俳句をはじめる。
昭和21年	阿波野青畝先生のご指導を受ける。
昭和22年	波多野爽波氏を中心に春葉会を結成し、 虚子先生のご指導を受ける。
昭和27年	山形大学に赴任するまで、かつらぎ編集に携わる。
昭和30年	雪舟創刊に参画、編集にあたる。 平成6年主宰。
平成16年	句集「最上川」発刊

### 合同句集として

「春葉会作品集」「山寺蕉風会作品集」「雪舟合同句集」